

PTA

やまがた

第45号

令和3年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 佐藤 博之

山形市大字風間字地蔵山下2068

弘栄設備工業株式会社内

TEL 023(676)8693 FAX 023(676)8694

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『子どもを愛し、地域を愛し、
互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

子どもを愛し、地域を愛し、

互いを信頼し合うPTA

「織り成す縁に感謝」

子どもたちと一緒に今を生きる」

山形県PTA連合会会長 佐藤博之



本会の運営・活動に対し、常日頃から温かいご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校、地域社会において子どもたちの健全育成のためにご尽力をいただき重ねて御礼申し上げます。

今年度も標記のスローガンのもと様々な活動を展開しようと計画しておりましたが、ご承知のとおり年度

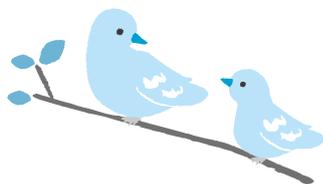
初めから新型コロナウイルスの感染拡大が進み、政府より非常事態宣言が発せられる事態となり、総会も書面審議という形態をとらざるを得ませんでした。さらには、私たちが最も大切にしている研修活動の日本PTA全国研究大会富山大会も中止決定の知らせ、そして日本PTA東北ブロック研究大会会津若松大会の中止決定の知らせが届き、国内・県内の感染状況を鑑み、山形県PTA研修大会酒田飽海大会も中止という決断をしなければならなかった年度でありました。一年以上も前から準備を進めてきていただいた酒田飽海PTA連合会の実行委員の皆様方には本当に申し訳なく、無念の想いでいっぱいでございます。

また毎年、高等学校PTA連合会様と県教育委員会様との合同教育懇談会も開催できなかったこともあり、ことごとく研修の場を失ってしまいました。

昨年度、この懇談会で学校における働き方改革をテーマに研修が深められました。今年度教育現場では、通常の業務に新たなコロナ対策業務が加わり一層多忙さが増大した状況になってきております。「新たな問題への新たな対策は社会全体に求められている」ので、PTAは、家庭教育の責任者としての親と、学校教育の専門家としての教師が互いに協力・学習し、全ての子どもたちの健全な成長のために活動する団体として貫いていきたいと思っております。そして、厳しいコロナ禍にあっても、PTAは家庭・学校・地域を結ぶ架け橋としての役割と責務の重要性と「教育の基盤は家庭にある」ことを自覚し、地域と一緒に子育て子どもたちの健全育成を第一に考え、課題解決に取り組んでいきたいと考えています。令和四年度には日本PTA全国研究大会山形大会が開催されま

す。いよいよ一年半後に迫ってきました。山形県らしい大会を目指し、実行委員会を中心として準備が本格化してきております。コロナ禍という逆境の中での開催になることを考えると歴史に残る記念すべき大会にしたいかなければならないと考えております。そのような大会の開催に向けた取り組み姿や想いが必ず子どもたちに伝わり、子どもたちの健全育成と今後の山形県PTA連合会の充実発展につながることを確信しております。県内のすべての会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に山形県教育委員会をはじめ関係機関・団体各位の皆様からの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。



「家庭・地域と連携して子どもを守る」



酒田市立松原小学校
校長

寺嶋 一郎

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、PTA活動や学校と地域との連携による活動が大幅に制限されることとなりました。

そんな中、本校においては、感染防止対策を講じながら安全にできる活動をしぼり込んで実施してきました。ここでは、その一端を二点ほど紹介します。

一つ目は学校保健委員会についてです。三密の回避に留意しながら、PTAの皆さんの全面的な協力により実施することができました。今年度の主なテーマは、「メディアコントロール力の育成」です。本校で実施したアンケート調査から見えてきた課題を共有した後に、低・中・高学年別にグループ討議を行いました。各家庭のゲームに関するルールについての情報交換やそのルールを守るための手立て等について活発に話し合いがなされました。そして、今後に向けては、次年度の学年PTA活動において、このことを話題にし、より多くの保護者に問題意識を持ってもらうことを共有するこ

とができました。

校医の先生からは、メディアについてはゲームだけではなく、SNS等を通じたトラブルにも注意を払う必要があることや、親がもつ子どもにかかわり、積極的に言葉をかけたり褒めたりすることが未然防止につながるということなどが、たいへん貴重なご助言をいただきました。

もう一つは、通学時の子どもたちの安全確保についてです。昨年9月、本地区において、未明からの豪雨により通学路が冠水するという事態が発生しました。当日は登校時刻を遅らせるという対応をとったのですが、このような緊急時の安全確保が課題として浮かび上がってきました。

そこで、PTAや各自治会等と協議を重ね、そのような緊急時の通学路の状況把握や登校時の見守り体制等についての対応案をまとめることができました。今後、さらに広くご意見をお聞きし、より機能するものにしていく予定です。

子どもたちを取り巻く問題を考えた時に、学校と家庭・地域との連携はなくてはならないものです。本学区においては、コロナ禍にあっても必要な連携と協力が得られており、たいへんありがたく思っています。これからの連携を大事にして子どもたちを見守っていく所存です。

第70回日本PTA全国研究大会山形大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会山形大会 開催に向けて



実行委員長
船橋 吾一

初めまして。令和元年十二月十九日に開催されました実行委員会設立総会におきまして、実行委員長に任命されました、蔵王第一中学校の船橋吾一と申します。どうぞ、宜しくお願い致します。

さて、実行委員会が設立されまして、早いもので一年以上経過いたしました。その間、皆様ご存じの通りコロナウイルス感染拡大により世の中が一変しました。新しい生活様式への移行により、私たち大人ですら時代に適応していくことが困難な時代となりました。そんな中、私も実行委員会も計画してきた歩みを大幅に変更せざるを得ない状況下の中、何とか準備を進めてきているところであります。感染拡大による緊急事態宣言が発令された際は、活動が一時中断したところではありますが、その後りモート会議システムなどをふんだんに使いながら、準備も遅れることなく進めることができております。実行委員会メンバーも、多くの方からのお声がけもあり五十名を越す方々から集っていただき、五つの専門部を編成しそれぞれの分野で積極的に進めて

いただいているところでもあります。主催である日本PTA全国協議会への議案上程も二月より本格的にスタートいたしました。近々、大会概要を皆様にお示しできることと思います。是非お楽しみにいただければと思います。

結びに入る前に一点だけ報告とお礼を申し上げます。本大会の開催は令和四年八月予定であります。本大会の開催に向けて、山形県PTA連合会として協働運動を展開しております。その事業名を「山形県内PTA協働参画型発信事業「いじめのない環境をこの山形から」といたしました。コロナウイルス感染拡大防止のため、PTA活動ですらままならない状況下において、皆様にご迷惑をおかけしながら募集をしてまいりましたが、本事業の主旨をご理解いただき、一八もの事業を申請いただきました。本事業を大会当該年度まで継続し、その名の通り「いじめのない環境をこの山形から」全国研究大会において全国に発信していきたいと思っております。

当該年度まで、皆様には何かとご迷惑をおかけしますが、折角頂戴したこの機会を活用し、山形県PTA連合会のさらなる活性化はもろんのこと、全ては愛する子どもたちのために実行委員会としても精一杯活動していきますので、どうぞご理解の上ご協力をよろしく申し上げます。



山形県PTA母親委員会
委員長
高見佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。各郡・市PTAの母親委員会におかれましては、今まで経験したことのないコロナ禍において、感染防止に努めながらできる限りの活動をしていただきありがとうございます。

県P連の母親委員会においても一回目の委員会は書面会議になったものの、二回目の委員会からは感染防止に努めながら、「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、各郡・市Pの母親委員会の活動について情報交換を行いました。また、視察研修では、山形市P連の母親委員と交流を図るとともに、山形市PTA連合会と山形市PTA連合会母親委員会共催の「いのちの大切さ学習会」に参加し、家庭での性教育の大切さについて学びました。ぜひ皆様にも掲載記事をご一読いただき、家庭においての性教育を考えていただければ幸いです。

男女平等がさげばれ、母親委員会は時代遅れではないかとのご意見もありますが、山形県はまだまだお父さん方がPTAで活躍してくださる県です。そのため、母親委員会は、子どもにとって一番身近な存在である。お母さんの思いを共有することができ、大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を活かし、父親のみならず子育てに関わる方々と「子どもたちのために何ができるのか」共に考え、活動につなげていきたいと思っています。

どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思います。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士がつながり、情報を共有することが重要ではないかと思えます。このよくな時代だからこそ、子どもとの「かかわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら活動してまいりたいと思います。

各地区の活動報告



【令和2年度 母親委員会】

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
～かかわる喜びつながる心～
- ・定例母親委員会3回（書面会議・中止・2月19日）
- ・拡大母親委員会1回
研修：「いのちの大切さ学習会」（県P親学補助事業利用）
講師：井上聡子氏（さとこ女性クリニック院長）
- ・「親学」家庭教育視察研修（山形市青少年指導センター視察）
- ・母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.25 発行

《東田川郡》

- ・定例母親委員会（中止）
- *活動報告
- *情報交換等



《米沢市》

- ・定例母親委員会（中止）
- *活動報告
- *情報交換等

《鶴岡市》

- ・鶴岡市P連研修大会への参加（中止）
- ・市教育委員会との教育懇談会（正副委員長のみ参加）

《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（中止）
- ・代表母親委員会研修及び情報交換会（中止）
- ・母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」発行予定

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会（中止）
- ・母の集い（中止）
- 各校単位PTAより2名以上の参加を要請して行く。
- ・「母親委員会だより」発行

《東置賜地区》

- ・地区Pでは組織がなく活動なし。（単位P3校での組織・活動あり）

《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換・講演会）
講演：「子どもの心が見えますか。親と子の幸せを祈る助産師からのメッセージ」
講師：後藤敬子氏（ごっと助産院 院長）
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力（中止）

《西村山》

- ・代表委員会1回
（活動報告・情報交換）

《西置賜地区》

- ・地区母親委員会（中止）
- ・「母親委員会だより」（中止）

《上山市》

- ・母親委員会1回（書面会議）
- ・上山市PTA連合協議会兼母親委員会保護者研修会
研修：「自分も相手も大切にするかかわりに必要なこと」
講師：副島賢和（そえじままさかず）氏

《北村山》

- ・村山市P：読み聞かせ/おたより発行
- ・尾花沢市P：委員会/おたより発行
- ・大石田町P：読み聞かせ/おたより「母親伝言板」発行
- ・東根市P：組織なし

コロナ禍における学校の教育活動について



山形大学附属中学校
早坂 智

4月から5月までの2カ月間、新型コロナウイルス感染症の予防及び感染拡大防止のため、県内の多くの学校が臨時休校となりました。本校も同じように臨時休校を行い、6月からようやく学校再開を果たすことができました。ただし、2カ月間の臨時休校を補うために、夏休みや年末年始休みなどの長期休業の短縮化や週の授業時数増、さらに、学校行事や様々な活動の取組の見直しなど、教育課程の変更を行いながらのスタートとなりました。これまで授業で当たり前のように行っていた協働的な学びをはじめ、様々な活動や取組についても今後どのようにしていったらいいのかなど、全教員で考えながら、今年度これまで取り組んできたところではあります。

特に、運動会や合唱コンクールは、生徒のみなさんにとって意義のある、また様々な力をつけることができる大きな行事になります。そこで、再度実施する目的やねらいを明確にした上で、実施内容や時間、参加者、本番までの練習など、これまでのやり方を一から見直すことで、ようやく実施することができました。多くの制約のある中、これまで先輩たちが築き上げてきた伝統をしっかりと受け継ぎながら、新しい内容に挑戦し、精一杯取り組んでくれた生徒のみなさんに、とても感動したところです。また、行事を行うことの大切さについて改めて教えてもらいました。本校と同じように、多くの学校が、どのようにしたら実施できるのかを考え、修正や改善を図りながら、様々な教育活動に取り組んでこられたと思います。

また、本校は大学の附属学校であるため、教育実習を希望する学生の実習校として、大きな役割を担っています。他校でも教育実習が行われますが、本校の場合、その人数は130名以上にもなります。そのため、これまでのような実習を行うことが難しいと判断し、教育実習についても、新型コロナウイルス感染症に対する対策を行い、感染者を出さないように臨んだところです。「三密を防ぐ」という観点から、思うように生徒と触れ合うことができなかったと考える実習生もいたかも知れませんが、各教科の特性をはじめ、探究的な授業やICTの効果的な活用については、例年と同じように、指導や支援を行うことができたと思っています。

さらに、本校の大きな柱の一つである「探究的な学び」について、教育関係者の方々へ発信する「授業づくり研修会」を11月に開催することができました。コロナ禍であるため、今年度の参加者については、県内の先生方に限定し、参加人数も制限することや、受付では健康カードの提出と検温を行うなど、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、2日間に渡って実施しました。県内から参加された先生方とともに「確かな力をつけるための授業」について、研修を深めることができました。

最後に、今年度、運動会や合唱コンクールのように行うことができたもの、逆に、各種大会やコンクールのよう、残念ながら行うことができなかったものなど、様々あります。これまでの活動や取組について振り返りながら、成果と課題を明らかにするとともに、新しい教育活動の展開と充実に向けて、今後も努めていきたいと考えています。

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をとおして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

授業前の「朝読書」と 母親委員会「読み聞かせ」活動

山形市立山寺小中学校PTA

山寺小中学校では授業前の「朝読書」と母親委員会による「読み聞かせ」活動を行っています。

授業前の朝読書

小学生は一人一冊図書館にて本を借り、朝読書の時間を設けています。まずは本に興味を持ち、読書を好きになつて素敵な書籍に出会つてもらえればいいかと願っています。

母親委員会「読み聞かせ」

小学生を対象にした「読み聞かせ」を基本月一回、年間合計八回行っています。

毎回ボランティアの皆様のご協力を頂き、大変質の高い充実した内容にする事が出来ております。

しかし、今年度は残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止の為、二学期に入ってから母親委員会「読み聞かせ」を開催いたしました。

待ちに待った子どもたちは、表情豊かにキラキラと目を輝かせて聞き入っていたのが印象に残っています。



より多くの本と出会い、本に親しんで頂ければと願い、これからも子どもたちの育成、また「読み聞かせ会」を通じてPTA活動の発展に繋がられる様に活動してまいります。

夏休み 親子で一緒に読書をしよう

河北町立谷地中部小学校

読書の時間を共有することで、親子の関わりを深め、読書の幅を広げることがねらいとして、夏休みに親子読書に取り組んでいます。取り組み方の例を提示して、各家庭の都合に合わせて実施してもらい、その様子をカードで知らせてもらいました。

親子読書のしかたの例

- 親子で同じ本を読む。
- 同じ時間に親子で別々の本を読む。
- 一冊の本を交互に読む。
- 親から子へ、子から親への読み語りをする。

読んだ本

「ぼくがあかちゃんだったとき」

息子が産まれて八年。自分の経験と重ねながら読みました。読後に幼いころの写真を見ながら家族で思い出話をしました。(母)
おとうさんが、あかちゃんの話をしてくれるお話です。ぼくも、あかちゃんときをおもいだしました。(小2児童)

下学年では、読み語りや、子どものおすすめの本と一緒に読んで話題にする家庭が多く、高学年では読書の時間を共有する家庭が増える傾向にありました。集まった感想用紙を掲示したり、図書だよりで家庭に様子をお知らせしたりしています。



PTAとともに取り組む楽しい読書活動

新庄市立新庄小学校

本校には、学校司書と読書活動推進加配教員が配置されており、図書担当が子どもたちと家庭との橋渡し役になり、子どもたちが楽しく読書活動に取り組めるようにしています。

1 読み聞かせの実施

月二回木曜日の朝活動の時間に、読み聞かせサークル「おはなし広場」の皆さんから、読み聞かせをしています。



子どもたちがお話の世界に引き込まれる楽しい時間になっています。

2 親子読書の継続的な実施

毎月第三日曜日を「親子読書の日」に設定し、年間を通して親子読書に取り組んでいます。親子読書には、①おうちの方から読み聞かせをしてもらう②おうちの方へ読み聞かせをする③同じ本を親子で読書をするの三つの方法から選んでもらい、感想などをカードに記入しています。親子読書の前に校内放送で図書委員会が呼びかけをしたり、図書館内に「親子読書おすすめの本コーナー」を設置したりしています。

3 家庭への啓発活動

今年度は「PTA広報紙」の特集に、読書をテーマにした内容を設定しました。

また、定期的に「図書だより」を発行し、学校での読書活動の様子を家庭にお知らせしています。



地域と、家庭と、子どもの心を耕して

高畠町立高畠小学校

本校では、地域のボランティアの方々と家庭の協力をいただき、様々な読書活動に取り組んでおります。秋の読書月間には家庭での親子読書に取り組みました。毎年、地域のボランティアの方々による朝の「昔語り・読み聞かせ」を行っており、その時間を子どもたちにとっても楽しみにしています。

朝の「語り部・読み聞かせ」



年に一回の特別な時間「ぼっかぼかシアター」

毎年、読み聞かせボランティア「ひだまりおはなし会」さんによる『ぼっかぼかシアター』を開催しています。光や音を使ったステージに子どもたちは物語の世界に入り込んで楽しんでいきます。



家族でゆったりとした時間「親子読書」

学校全体で期間を設け、「親子読書」に取り組んでいます。今年は短い期間でしたが、各家庭で時間を作ってゆったりとした時間を過ごしたようでした。



親子読書カード

【感想紹介】

「かぞくみんなで読書をする時間がふえたので楽しかったです。テレビやメディアにあまりふれないで、たくさん本を読めました。（低学年児童）」、「日曜日は町の図書館から本を毎週借りてきています。本を読んだ感想を教えてくださいるので、会話がはずみました。（高学年保護者）」

本好きな子を育てるPTA活動

酒田市立十坂小学校

本校では、PTA学習部が中心となって、子どもたちに読書を促す活動を行っています。今年度は、感染症対策をしながら、できる範囲で行ってきました。

〈朝の読み聞かせ〉

PTA学習部員と地域のボランティア「とさつこぬくりん」の皆さんによる読み聞かせ活動を月に一回程度行っています。今年度は二学期から密を避けながら実施しました。子どもたちも毎回楽しみにしています。

すが、読み聞かせるメンバーも「熱心に聞いてくれる」「子どもたちの反応が良い」など活動への手応えを感じています。読んでいただいた本を図書館で探し、改めて自分で読んでみる子どもも多いようです。

〈親子読書〉

秋の読書祭りに合わせ、全校で親子読書に取り組んでいます。一冊の本を親子で読み、カード



に感想を書き込みます。カードはPTA学習部員が学年ごとにまとめ、学校の中央ホールに掲示しました。子どもたちは、友だちが読んだ本にも興味を持って見えています。

〈ナイトライブラリー〉

今年度は中止しましたが、例年はPTAが主体となって夏の夜に図書館を開放し、親子で本を借りたり、読み聞かせを聞いたりするナイトライブラリーを行っています。昼間とはちよつと違う雰囲気のある図書館で親子一緒にゆったり過ごすことができ、好評です。来年度は実施できるようにしたいと思います。



「共に遊び 共に笑い

共に育ち合うふれあいPTA」

を合言葉にした自主自立のPTA活動

東根市立大森小学校PTA会長 小 関 進 也



一、はじめに
本校は、平成二十三年四月に開校された新設校で、

開校当初は五四七名であった児童数も十年目を迎えた令和二年度は、七一四名と増加傾向にある。従来、学区である神町地区は開拓団として入植した方々の努力により開墾された地域であり、「開墾魂」が強く、地域力の高いところでもある。元々の地域住民と、若い世代の新居住者をつなぎ、地域コミュニティを高める役割をPTA活動が担っているという点が地域づくりを進める上での特色となっている。

二、特色のある取組みについて
(一) 自立活動の幹となる組織構成

総務部員は、PTA活動の中核を担う一人としての自覚の育成を踏まえ、基本的に六年間の継続性を取っている。総務部の主な活動として、「PTA歓迎会」「秋季大運動会

反省会」「学年対抗PTAボウリング大会」があり、各専門部とも協力しながら開催し、PTA相互の親睦や意識・意欲の向上に努めている。今後は、「情報交換サロンの開設」や「不要になった運動着や給食着・絵本等の譲渡会」なども企画していきたい。

また、年二回のPTA広報紙「きずな」の発行は、PTAとしての意識の向上の一助となっている。

(二) 学習活動の支援事業

① PTAを母体とした読み聞かせサークル「ぶーけ」による毎月一回程度の読み聞かせ活動や図書室掲示等【令和元年度…全国読書活動優秀実践校】は、子どもたちの豊かな情操教育を担っている。

② 二年生町探検や五年生自然の家宿泊体験学習、福祉学習やキャリア教育等のゲストティーチャーとしての直接支援、陸上大会等の準備や運営協力を実施している。こ

れらの活動は、PTA会員の特技や持ち味を十分に活かすことができ、会員の活動意欲や有用感につながっている。

(三) 家庭教育の支援事業

① PTA家庭教育講演会の企画運営を行い、家庭での子育てについて学ぶ機会を設けている。例えば現代の課題「ネットモラル」について、六年親子研修会を開催するなど、「ノーマディア」や「生活リズム」活動を推進する働きを促している。

② 神町中学校区のPTA役員が年に三回「三校PTA連絡会」として、子どもの健全育成について情報交換を図っている。この連携は、九年間の子どもの育ちを踏まえ、PTA運営の在り方につながってきた。

③ 生活環境部では、「校門前でのあいさつ運動」や、生活標語を募集し優秀作品を看板にして、学校周辺に掲示している。また、児童委員会の呼びかけにPTAが協力する形で、リサイクル活動や全家庭における「我が家の節電」ISO活動にも積極的に取り組んでいる。これらの事業は、学校が起点となりPTA活動に位置づけることで、相乗効果をあげている。

(四) 地域連携事業

「さくらんぼマラソン」親子全員

応援や「全校芋煮会」活動支援は、郷土愛を醸成している。また、地域安全見守り隊と六年生保護者が連携して、毎週火曜日の下校時間に合わせた学区内パトロールを実施し、危険箇所の点検や安全な校外生活について呼びかけ、地域が一体となって子どもの育ちを支えている。

三、成果と今後の方向性

開校十年目の学校ではあるが、活動に前向きな会員が多く、自主自立的なPTAの形が新しい伝統として形作られ、会員の意識や意欲を高める様々な実践を通して、会員相互の親睦の輪も広がってきた。また、保護者の前向きさが、子どもの学びや活動に対する意欲の高まりにもつながっている。

今後は初めて会員となる保護者も増えてくる状況を鑑み、会員一人一人がより参画意識を持てるような「企画の実施」や「組織の雰囲気づくり」に努め、地域づくりのプラットフォームとしての役割をPTAが推進したいと考える。

今回の優良PTA文部科学大臣表彰はPTA会員にとって誉高い。コロナ禍であっても、創意工夫と共育する姿勢を持ち続け、本校の教育活動を支えていく立場でありたい。

「子どもの健全育成に向けて対話・協働を大切にしながら楽しく活動」

遊佐町立吹浦小学校PTA会長 高橋 弘一



一、はじめに
本校は、山形県の最北端に位置し、東に秀峰「鳥海山」、西には雄大な「日本海」を望む景勝の地にある。明治七年に「吹浦学校」として創設されて百四十六年の歴史を刻む。児童数七十八名、八学級、教職員二十名の小規模校である。PTAは、全保護者と教職員が構成員となり、事務局を中心として、総務厚生部、広報研修部、育成部の3部で組織している。また、平成三十年度からコミュニティスクールとなり、学校運営協議会が立ち上がり、PTA活動との連携も進んでいる。

二、特色ある取り組みについて
(一) **活動テーマと活動目標の共有化**から

本校では、活動テーマに掲げた「対話」と「協働」と「楽しみながら」を保護者や教職員が共有すること、学校行事や学年親子行事、奉

仕活動が、単なる活動から意味づけされた有意義な活動となっている。

【活動テーマ】

子どもたちの健全な成長に向けて、学校・家庭・地域が「対話」と「協働」を通して、進んで楽しみながら活動していこう。

【活動目標】

- ①「躍動する遊佐っ子10か条」をふまえ、吹浦小PTAの取組みを考えた実践
- ② 専門部活動の効率化と全員体制による活動
- ③ 子どものために学ぶPTA活動を推進
- ④ コミュニティスクールの推進を通して地域行事やまちづくり協議会等とも連携しながら各学年活動を推進

(二) PTA組織の運営について

PTA三役や理事、評議員の学年選出方法が規約によって明確になっており、全員で参加していく意識が

確立している。また、新年度の体制づくりと大まかな活動計画を前年度に立てることで、新年度の見通しを持った活動ができた。前年度踏襲に終わらない新しい工夫のめられる活動ができた。また、会員の思いをPTA三役が受けて、臨時理事会で話し合う協力体制ができている。

(三) PTA家族の日(毎月第二日曜日)

各家庭での親子のふれ合いを大切にした活動を通して、親子の絆を深めたり、生活リズムの確立を図ったり、それに関連させたメディアコントロールに取組んだりしている。

(四) 家読の日(毎週土曜日の短時間)

読書時間は五分でも十分でも構わない。親子が本を通して、ふれ合う時間を大切にしている。

(五) 子どものために学ぶPTA研修活動

〈生活習慣づくり研修会〉
学校と保護者・地域住民との信頼関係を深め、児童の健全育成を図ることを活動のねらいとして、山形県家庭教育アドバイザー遠田裕子氏を招いて研修会を開催した。

(六) 学校とつながる学年PTA活動

本校には、「鳥海山・飛鳥ジオパーク」・「アマハゲ」を伝承している地域や令和二年に国指定史跡と

なった「小山崎遺跡」もある。このように恵まれた伝統文化や自然環境を、子どもたちには自分のふるさととして体感し、愛してもらいたい。その思いを保護者や学校、地域が持つていて、学年毎に行っている親子レクに取り入れている。

三、成果と今後の方向性

本校は、これまでも保護者や地域と学校が「吹浦を愛する子どもを育てたい」という共通のテーマを持つて、様々なPTA活動を工夫しながら企画・運営することができた。三年後には、遊佐町一小学校に統合となるが、今後とも吹浦の歴史、伝統文化、自然が将来にわたって心に残るPTA活動を推進していきたい。



この度、舟形町立舟形小学校PTAは、令和二年度「日本PTA全国協議会会長賞」を受賞することができました。この名誉ある賞を受賞で

きましたのも、ひとえに統合から八年、ご尽力いただきました諸先輩方、学校やPTAを支えてくださった地域の皆様、そして子どもたちを励まして育ててくださった教職員の皆様のおかげだと、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

本校は、山形県の北東部、舟形町の中心に位置しています。町の東西を清流小国川、南北を山形県の母なる川最上川が流れ、田園地帯が広がる自然豊かな町です。特に小国川の鮎は「松原鮎」として天皇に献上されたほど有名で、毎年夏は多くの釣り人たちが訪れ、賑わっています。

舟形町には、縄文時代中期の集落跡と言われる西ノ前遺跡があり、そこから出土した「縄文の女神」は、平成二十四年国宝に指定され、町民の誇りとなっています。

舟形町のスローガンは、「地域に育ち、地域を育てる町民の育成」です。一保育所一小学校一中学校の連携・協力による一貫教育の充実をめざしており、「学校・家庭・地域・行政による町ぐるみの教育」を推し

進めています

PTAの組織として、三役・校外生活委員会・学年委員会・母親委員会・広報編集委員会・文化研修委員会・保健体育委員会・環境整美委員会・交流委員会のいずれかに属し、一家庭一活動を行いながら、学校行事や学年・学級の教育活動をサポートしています。

舟形小PTAでは昨年度の反省を受け、今年度の活動テーマを「子ども

あいさつには課題が残っていること。また、地域の中でより一層子ども

の安全を図っていく必要があること。

③ 家庭学習にかける時間が二極化している現状があり、SNS利用にかける時間が急増している家庭もあること。

そのため、PTAでは、①「かわり」を学ぶ活動の促進、②「つながり」を大事にした活動の推進、③

し方について、講演と演習で学ぶ機会を持ちました。

② つながりを大切にするため、家庭でのあいさつの充実を図るとともに、各地区でのあいさつ運動にも力を入れています。また、地区ごとに危険箇所確認や安全な乗り方指導のための自転車教室を実施しています。

③ 環境づくりとして、学校で行っている「生活リズム家族会議」を積極的に活用し、親子で話し合い、学習に向かう姿勢づくりを行っています。また、親子で一緒に行う活動として、親子読書や親子新聞、漢字検定の受検、「算数チャレンジランキング」などにも取り組んでいます。

成果として、PTAが一体となって活動を行うようになってきていることが挙げられます。今後、さらに各委員会同士の横のつながりを大切にし、取り組んでいく体制をつくっていきたいと考えています。

最後になりますが、コロナ禍の中ではありますが、この受賞を記念に、今後なお一層の発展のために、そして子どもたちの健やかな成長のために、皆で一丸となって活動していきたいと思えます。

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

「子どものよりよい生活習慣をめざすPTA」

「かわり、つながり、共に学ぼう」



舟形町立舟形小学校PTA会長 植松路子

ものよりよい生活習慣をめざすPTA「かわり、つながり、共に学ぼう」に決定しました。このテーマを掲げたのには、以下に示す本校児童の実態が挙げられるからです。

① コミュニケーション能力等の不足から他とのかかわりや、SNSに対する意識の低さ等の課題があり、心の安定を持たせることが重要であること。

② 家庭や地域のつながりの中での

ディアコントロールに係る親の接

「共に学ぶ」ための環境づくりの三つを重点として取り組んできました。この重点を達成するため、各委員会で活動を計画、実施しています。ここで取り組んでいる活動のいくつかを紹介いたします。

① 親自身が子どもとのかかわりを学び、親としての力量を高めるために、研修会を毎年開催しています。昨年度は、子どもたちのメ

一、はじめに

本校は、山形盆地を囲む雄大な山並みが一望できる山形市西部に位置する学校である。山形市立第十学区内の就学児童の著しい増加に伴い、北校舎を借用して昭和五十六年開校。来年度創立四十周年を迎える。

現在本校は、学級数一三（普通学級一、特別支援二）全校児童二八三名である。開校当時の児童数七二四名を考えると、少子化の波はここまで影響している。

二、特色のある取組みについて

(一) P T A組織について

① P T A事務局・理事会

P T A事務局は、P T A総会の開催や、P T A理事会の議案を作成する。また、内外の会議や研修会、懇親会等へ出席する。

P T A理事会は、学校P T Aを運営する。P T A事務局、各専門部長、各学年委員長、子ども会育成連合会長、スポーツ少年団連合会会長で構成されている。

P T A理事会の会議は年五回ほど開催している。

② 環境美化部

児童がきれいな設備で安心して学習・活動できるように、遊具のペンキ塗りや校庭の草むしり、池の掃除などを行っている。

資源回収では各地区集積所の担当

として役員の協力を得ながら、車での巡回や交通整理、P T A会員や地域の方から持ち込まれた資源物の積み込みなどを行っている。

③ 文化広報部

年三回、P T A会報『かきつばた』を発行している。低学年・中学年・高学年に分かれて、それぞれ学期ごと一つの号を担当する。原稿の依頼、編集作業や写真撮影などが主な仕事である。

指導を年二回程度行っている。

⑥ 母親委員会

市P T A連合会母親委員会の研修会への参加や校内活動として『母親委員会だより』の発行と給食試食会を行っている。また、全児童への絵本の読み聞かせも行っている。

(二) 主な活動

① P T A研修会

「インターネット利用に関わる非行と被害の現状と対策」
青少年ネットトラブル事件に携

優良P T A日本P T A全国協議会会長表彰

家庭・学校・地域と連携し

子供たちの未来を守ろう

山形市立宮浦小学校P T A会長 **峯田 巨**

④ 保健体育部

P T A球技大会の実施運営、及び全P T A会員から選手を募集し、ソフトボール二中杯、市P T A連合会ソフトボール大会へ参加している。

⑤ 生活部

朝の通学指導は生活部が中心となり、全P T A会員に年数回協力を依頼している。下校時刻など生活部員それぞれの活動できる時間や住まいの地区に応じて分担し、車での巡回

T Aの時代に対応した活動とは」

このテーマで活発な話し合いがなされた。家庭環境の変化、インターネットの普及、少子化等、著しく変わりゆくこの時代。それでも残していかなければならないものは何か、趣旨を損なわずに形を変えていかなければならないものは何か。一〇〇名ほどの参会者が一三のグループに分かれ、それぞれの学校P T Aの取り組みや成果・課題等について耳を傾け合い、実りある分科会となった。

三、成果と今後の方向性

持続可能なP T A活動を目指し会議の精選を行っている。夜の会合は、地区のコミュニティーセンターを利用するなど積極的に改革を行っている。また、入学時は六年間を見越した役員人事を行い、引き継ぎを早めを実施するなど、円滑な運営を心がけている。しかし、教員の働き方改革や持続可能なP T A活動の充実を図るためには、組織、運営等の更なる見直しを図らなければならない。

新型コロナウイルス感染症が、教育活動全般に多大なる影響を与えている。今年度これまで当たり前のように行われてきたP T A活動が大きくな変更を余儀なくされた。子どもの未来を守るために、新しいP T A活動のあり方を問わなければならない。

② 山形市P T A連合会研修大会
主管校として前年度から準備を進め、分科会の企画、運営に携わった。
【宮浦小担当…第三分科会】
「昔と今と、そしてこれからのP

東北ブロックPTA協議会会長表彰

「あかるくかしくくゆうきある」子どもたちを育むPTA

南陽市立赤湯小学校PTA会長 齋藤拓也

一、本校を取り巻く環境

本校は、今年で創立百四十八周年を迎えた、全校児童五百六十名が在籍する、南陽市内では、一番大きな小学校である。

本校の学区は、南陽市南東部の赤湯地区にあり、教職員と保護者と地域の人たちがつながりを持ち、赤湯中学校区で幼保小中一貫教育として「自主・自立」自ら考え、進んで、やり遂げる子どもを育成を目標に学校づくりを進めている。赤湯地区は、赤湯温泉があり、ぶどうとワインの産地にもなっている。また、郷土の偉人である結城豊太郎翁は、「ふるさととは国の本なり」と説き、ふるさとの大切さや人づくりを大切にし、赤湯地区の若者に実学性の高い学問などを教えるため「風也塾」を開くなど、古くから青少年の育成に熱心な風土がある。

二、特色ある取り組みについて

① 赤湯小学校PTAの組織

PTAのスローガンとして、近年、子どもたちの「未来」という言葉を取り入れて取り組みを進めている。事務局員が、学年部や専門部の活動に関わることで、円滑なPTA活動を行っている。

令和元年度には、本校が事務局校として、南陽市、高島町、川西町の小中学校が連携して、第五十一回日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会を開催することができた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症という、これまでに体験したことのない状況の中、赤湯小学校PTAとしてできることは何かを常に考え、取り組みを行っている。

② 子どもを未来を考える活動

今や未来の自分を見つめ、将来の夢や目標について考えるきっかけとなるように、地元赤湯出身のオリンピックである池田めぐみ氏や学校の先生からのメッセージを読み、「子どもの未来」を親子で考えるという活動に取り組んでいる。

③ 各学年の親子行事

集まらずに実施できる親子行事という制限がある中、様々なアイデアが出され、「南陽市の防災マップを見て、自宅から避難所まで歩き、非常食を食べてみる。」など、各学年の子どもたちに合わせて、様々な行事を実施することができた。

④ 地域団体との連携協力

赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会が主催する防犯や町づくりなどを話し合う「まっすぐミーティング」に参加し、子どもと地域のつながりづくりに積極的に取り組んでいる。また、赤湯地区PTA連絡協議会を組織し、赤湯地区内の幼保小中4施設のPTAが、お互いの連携と情報の交換を目的に、連携したあいさつ運動など、様々な事業を実施している。

三、成果と今後の方向性

保護者と教師がつながりを持ち、PTAの活動に取り組み、今年度のスローガンに掲げた「共に守ろう 子どもたちの安心と安全 共に創ろう 子どもたちの未来」につながっている。多発する災害や新型コロナウイルス感染症により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。特にコロナ禍における対応では、これまで経験したことのない突然の休校など、学校教育の大切さや子どもたち同士のコミュニケーションの重要性を改めて知ることとなった。

コロナ禍により、これまでと同じような活動を実施することが困難な状況でも、PTAとして、保護者と教師が力を合わせ、できることを常に考え、知恵を出し合い、歩みを止めずに子どもたちの成長につながる活動を実施していきたい。

最後に、今回の東北ブロックPTA協議会会長表彰は、諸先輩方をはじめとする地域の方々のご理解とご協力があったこそだと実感している。この場をお借りして感謝申し上げます。

東北ブロックPTA協議会会長表彰

子どもたちを育て、新しい校風の創造を支えるPTA活動

あさひ小学校PTA会長 渡部純一

一、はじめに

本校は、旧朝日村全域を学区としている。徐々に統廃合が進み、平成二十八年から一地域一小学校という現在の「あさひ小学校」となり五年目を迎えている。

四つの委員会（学年・保健・広報・校外指導）に分かれて、活動及び事業を展開しているが、特に三つの地域（旧大網小学校区、旧大泉小学校区、旧朝日小学校区）の会員が相互に協力し合っていくことを重視している。

二、特色ある取組みについて

コロナ禍にあり、事業の縮小や中止を余儀なくされたが、様々な工夫のもと、子どもたちにとって有意義な活動が展開された。

（一）読み聞かせ活動の継続実施

朝の時間を使って、全学年で複数回実施することができた。今年度は、児童は着席したまま、実物投影機を使用する方法に代えて行った。

また、今年度初めて、事前に図書室での選本会を開催した。絵本について情報交換が活発に行われ、当日にも活きる会となり好評であった。

（二）地域学校協働活動の推進

あさひ小学校及び朝日中学校を対象学区とする、朝日地域学校協働本部（通称「てづねーたークラブ」）と協力して以下のような学校支援活動を実施した。

① 授業のサポート

五年生の家庭科（今年度は中止）など授業への補助や二年生の学区オリエンテーリングへの支援を行った。

② 郷土学習

学校田での米作り体験の指導や支援を行った。多数参加くださった、きめ細かなサポートができた。

③ 長期休業中の学習支援

コミュニケーションセンターを会場として開催された学習会への支援を行った。涼しい環境の中で学習でき、生活リズムの維持にも役立った。

三、成果と今後の方向性

地域課題に対して積極的に取り組み、児童の健全な育成と学習の推進に努めている。

今後、令和三年度スタート予定の学校運営協議会とPTAの連携について整理し、よりよい活動を展開していきたい。

コロナ禍におけるPTA活動の工夫



西村山PTA連合会
会長

茂木 健

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延は、丸一年が経過した今も猛威を振るい、まさに困難ともいえる状況が続いております。一日も早い収束を心から願うばかりであります。

その様な環境の中で、子どもたちは元気良く学校に通い、学びを続けております。その学びを続けていられるのも、学校の先生方の献身的な努力と熱意の賜物であると思っております。敬意を表するとともに御礼を申し上げます。

私たちの生活は一変し、学校教育現場においても様々な制限が強いられ、教育活動そしてPTA活動が思うようにできない状況となりました。集まることや、引き継ぎもできない中で、困難なスタートとなり、三密を避けるため総会や集合形式行事の中止という判断をせざるを得なく、リモートや書面による決議形式が多くなりました。どこ

までの活動であれば取り組んで良いかの判断が難しく、例年とは違う対応が求められました。

新型コロナウイルス禍にあつて、多くの会員が集まるのが難しくなっておりますが、オンラインなどの新たな「集まりの場」を活用しPTA活動を進めていくことも、意思疎通を図るうえで大事なツールになっていくと思っております。今後のPTA活動は、新しい生活様式に対応し、子どもたちのために何ができるのかを考え、活動の見直しをしながら事業を精選、工夫し、形を変えながらPTA活動全体を見直していくことが大切と考えております。これまで以上に学校と連携をしながら、子どもたちの安心・安全を第一に考え、相互に協力し前向きな考えでPTA活動にご理解を頂ければと思っております。私たちの活動で子どもたちが明るい未来を築いていくことができよう、ご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、それぞれの地域のPTA活動が益々盛んになりますことを心より祈念いたします。

コロナで消えた県P研修大会酒田飽海大会



大会実行委員長

園部 幸春

いつ終息するか分からない新型コロナウイルスの中、今年度は何が出来たでしょう。令和二年の二月、酒田飽海大会の中止が決まりました。

市P連の体制は毎年変わっていきます。担当事務局校として、二年前から会場の準備を進め、娘の入学に伴い、何も分からないまま事務局の会長を引き継ぎました。研修大会は、全国大会や東北大会など、何度か参加したことはありますが、実際の運営は初めてでした。準備を進めてきた教頭先生がまさか替わるとは思っておりませんでしたので、少し不安の中のスタートでした。

新しい体制で市P連もスタートし、初めて参加させていただきました。市P連も初めて、充て職の役員も初めてで、そんな中、新しい仲間と準備を始めました。準備を進

める上で教頭先生からは、多方面への連絡や、確認をしていただき、本当に助かりました。

記念講演の講師については、市長や社会教育課からのお声がけや提案をいただき、実際に二人の方にお会いし、講演を聴いたりご挨拶にも伺いました。大会当日の講演の内諾を頂いていましたが、正式な案内を出す前に中止が決まりましたので、丁重にお詫び申し上げます。

前年の南陽・東置賜大会でのPRについては、実行委員会の作中や上映についても、多くの仲間が関わりすばらしい物が出来たと思えます。

PTA活動では、多くの仲間が出来ます。初めは知らない者同士ですが、活動を通してお互いを見つめ刺激し合い、自分としても成長できるすばらしい場だと思います。子ども達の成長とともに活動できるのは後数年ですが、これからの出会いを大切に活動していきたいと思えます。

栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績あげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて佳作入賞、奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。(敬称略)

令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰

(団体)

東根市立大森小学校PTA
遊佐町立吹浦小学校父母と教師の会

令和2年度日本PTA全国協議会会長表彰

(団体)

山形市立宮浦小学校PTA
舟形町立舟形小学校PTA

(個人)

嶋貫 憲仁(山形県PTA連合会前副会長) 東置賜
仲川 慎一(山形県PTA連合会前副会長) 酒田鮑海
草苺 範明(山形県PTA連合会前副会長) 北村山

令和2年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

(団体)

南陽市立赤湯小学校父母と教職員の会
あさひ小学校PTA

(個人)

土田 有尚(山形県PTA連合会前理事) 上 山
五十嵐彰宏(山形県PTA連合会前理事) 天童東村山
國井 輝明(山形県PTA連合会前理事) 西村山
鈴木 秀治(山形県PTA連合会前理事) 最 上
川野 泰裕(山形県PTA連合会前理事) 米沢市
遠藤 愛(山形県PTA連合会前理事) 西置賜
難波 徹(山形県PTA連合会前理事) 鶴岡市
押切 崇寛(山形県PTA連合会前理事) 東田川
菅原 美穂(山形県PTA連合会前理事) 鶴岡市
齋藤 徹(山形県PTA連合会前監事) 上山市

令和2年度優良PTA山形県教育委員会表彰

小中学校PTAの部

東根市立大森小学校PTA
遊佐町立吹浦小学校父母と教師の会
山形市立宮浦小学校PTA
舟形町立舟形小学校PTA
南陽市立赤湯小学校父母と教職員の会
あさひ小学校PTA
上山市立宮川中学校PTA

大石田町立大石田中学校PTA
最上町立最上中学校PTA
米沢市立関小学校父母と教師の会
高等学校PTAの部

山形県立山形工業高等学校PTA
山形県立高畠高等学校PTA
学校法人山本学園高等学校PTA

令和2年度第42回全国小中学校PTA広報紙コンクール

日本PTA全国協議会(佳作)

酒田市立松原小学校PTA「まつばら」

日本PTA全国協議会(奨励賞)

新庄市立沼田小学校PTA「ぬまた」
大蔵村立大蔵小学校PTA「おおくらっ子」
真室川町立真室川北部小学校PTA「みらい」
長井市立長井小学校PTA「慈愛」
鶴岡市立藤島小学校PTA「ふじ」
酒田市立第一中学校PTA「絆」

山形県PTA連合会会長賞

朝日町立宮宿小学校PTA「かぼちゃの窓」
最上町立大堀小学校PTA「清流」
鶴岡市立朝暘第三小学校PTA「朝光」
鶴岡市立京田小学校PTA「希望(のぞみ)」
鶴岡市立広瀬小学校PTA「きぶね」
酒田市立琢成小学校PTA「琢成」
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA「ひなづる」

令和2年度山形県PTA連合会会長表彰

感謝状(令和元年度県P連役員退任者)

嶋貫 憲仁	仲川 慎一	草苺 範明
土田 有尚	五十嵐彰宏	國井 輝明
鈴木 秀治	川野 泰裕	遠藤 愛
難波 徹	押切 崇寛	菅原 美穂
齋藤 徹	土井 正路	尾形 吉則
小関 広明	半田 和彦	

表彰状(郡・市P連より推薦)

佐藤 隆幸	佐藤 竜太	遠藤 明
村山 秀和	石川 茂光	多田 孝徳
安達 良信	井上 信広	大場 進
佐藤 雄一		

山形県P・T・A連合会 安全互助会から

安全互助会は山形県P・T・A連合会事業の一環として運営されています。
関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

《条例の主な内容》

- ◎交通ルールの遵守
- ◎自転車の安全利用
- ◎自転車保険の加入義務化
- ◎自転車交通安全教育の充実
- ◎自転車の適正な管理

※その中の第12条自転車損害賠償保険等への加入については令和2年7月1日から施行されました。

児童・生徒の自転車での事故による損害については安全互助会に加入していることで補償の対象となります。未加入の学校P・T・Aは是非ご検討下さい。

安全互助会ってなあに？

～加入については学校P・T・Aごとになります～

- * 補償内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。
- * 児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶然の事故での賠償事故を補償します。
- * P・T・A行事中の会員（児童・生徒・保護者・教職員）の傷害事故・賠償事故を補償します。

▽近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1,000万円のコースをおすすめします。

- 安全互助会加入校のうち66%の学校P・T・Aが特A・特B・特Cの賠償補償額1,000万円のコースに加入されています。
特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

加入274校の内訳			
A	89	特A	172
B	3	特B	8
C	1	特C	1

▽子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- 傷害事故827件のうち90件が自転車に係る受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

▽事故の未然防止が一番大切です。

- 傷害事故の中でスポ少やクラブチーム活動中の事故が最多となっています。
- 登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



傷害事故支払状況 (単位：千円)				
年 度	件数	児童・生徒	件数	P・T・A傷害
平成29年度	1,168	11,394	49	2,649
平成30年度	1,111	9,973	47	2,741
令和元年度	1,032	9,717	45	2,514
令和2年度(3.1.25現在)	827	8,729	2	1,604

賠償事故支払状況 (単位：千円)		
年 度	件数	金額
平成29年度	76	5,351
平成30年度	67	3,862
令和元年度	74	3,839
令和2年度(3.1.25現在)	31	1,762

令和3年度より、死亡・後遺障害、入院、通院の保険金額が引き上げられます。

また熱中症・食中毒も補償の対象となります。

※なお、安全互助会会費はこれまでの金額と同じです。

第73回山形県PTA研修大会北村山大会のご案内



北村山PTA連合会
会長

金子一志

令和三年度、第七十三回山形県PTA研修大会北村山大会が、十月九日に開催されます。

私達、北村山PTA連合会は、村山市、東根市、尾花沢市、大石田町の三市一町のPTAで組織し、準備を進めております。

自然が豊かで、なごむ風景があり、さくらんぼ、米、すいか、そば等のすばらしい実りと食、花笠まつりや徳内まつり、東根まつり、大石田の大花火など地域の様々な文化も数多く子どもたちにも私達にも大事なふるさとです。

昨年よりのコロナ禍で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。学校の休校や感染予防の中での学校生活にとまどう子どもたちや保護者も多かったと思います。その中で、大会の準備をする時に、これから大事なものは、大きな変化の中

でも対応し、子どもたちの健やかな成長と命を守る為に、「まなぶ」ことを止めてはいけな

と感じました。

「つなげよう 未来へ 子どもたちの輝く命」～家庭・学校・地域と共に～の主題を掲げ、全体会のみ今回、講師に、元中学校体育教師、「命の授業」講演家の腰塚勇人先生を予定しております。先生は、大事故で首の骨を折り、全身マヒの体に。その後、懸命なりハビリにより社会復帰できるまで回復し、人生も人生観も大きく変化したそうです。

三年前の秋田大会で初めて講演を拝聴し感動し、次年度、楯岡中学校でも親子学習会を開催しました。コロナ禍の今、先生の「夢あれば困難あり、困難あれば仲間あり、仲間あれば感動あり」の言葉のもと、子どもたちの命を守りたい、輝かせたい、大切な人たちと一緒に学ぶ機会を皆様と共有できればと思います。これまでの出会い、これからの出会いに感謝と、参加お待ちしております。

令和2年度 山形県PTA連合会役員名簿

会長	佐藤 博之	山形市PTA連合会	第六小	理事	阿部 一道	東田川郡PTA連合会	立川 中
副会長	船橋 吾一	山形市PTA連合会	蔵一中	理事	寺嶋 一郎	酒田鮑海PTA連合会	松原 小
副会長	園部 幸春	酒田鮑海PTA連合会	酒四中	理事	早坂 智	山形市PTA連合会	附属 中
副会長	金子 一志	北村山PTA連合会	楯岡中	理事	高見 佳澄	山形市PTA連合会	山寺小中
副会長	茂木 健	西村山PTA連合会	河北中	理事	小笠原 舞	上市市PTA連合協議会	上南小
理事	黒田 紀章	上市市PTA連合協議会	上南小	監事	井上 哲寿	山形市PTA連合会	会計士
理事	阿部 秀顕	天童・東村山地区PTA連合会	山辺中	監事	庄司 和敏	天童・東村山地区PTA連合会	成生小
理事	高橋 臣也	最上地区PTA協議会	新庄小	監事	栗原 宏之	山形市PTA連合会	宮浦小
理事	佐藤 大輔	米沢市PTA連合会	万世小	事務局長	村山 良光		
理事	安部 直樹	東置賜地区PTA連合会	高島小	事務局員	佐藤 静子		
理事	鈴木浩一郎	西置賜地区PTA連絡協議会	長井南中	事務局員	奥山 絢子		
理事	後藤 春雄	鶴岡市PTA連合会	鶴岡五中				

御礼とお知らせ

令和二年度は、コロナに始まりコロナ禍で過ぎた一年でした。県PTA研修大会酒田鮑海大会、東北PTA研究会津若松大会、全国研究大会富山大会とすべての大会が開催できませんでした。県P連の最大の目的である研修ができなかったことは残念でありましたが、その中であつても感染防止対策をとりながら活動を続けることができたことは、県P連の会員の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。特に県P連事業と併せて日P全国大会山形大会の実行委員会の活動に取り組んでいた大き大きく進展したと思っております。

ニューノーマルな生活スタイルの中で慣れないonline会議、連絡EoDl等を駆使しての会議にも積極的にご参加いただいたことに重ねて御礼を申し上げます。令和四年八月開催予定の日P全国研究大会山形大会の準備が今後益々具体的になってくると思います。コロナを乗り越えて全国からの会員をお迎えし、ニュースタイルの大会を提案していきたいものです。たいへんな中ですが今後ともご協力よろしくお願ひ申し上げます。